様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：３２６６５
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2013
課題番号：２４６５３１２６

研究課題名（和文）原発事故に伴う広域避難と支援の社会学―「転換後」の社会像と生き方モデルの探究

研究課題名（英文）A Sociological Study on Widespread Evacuation and Support associated with Fukushima Nuclear Accident

研究代表者
後藤　範章（GOTO, Noriaki）

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：７０２０５６０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,800,000円、（間接経費）　840,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、原発事故の影響を直接･間接に受けて広域の移動を強いられた避難者の動向、避難者と支援者のうちに生じる苦悩や葛藤、そこから見出されるであろう安心や希望の道筋を、質的総合社会調査を通じて多様な角度から明らかにすることを目指した。調査研究を重ねて、「第2の戦後」と言われる事故後の日本社会の転換可能性、震災後の新たな社会像と生き方モデルを、震災が避難者と支援者に内在化させた「社会を変化させる力」(災害／原発事故エンパワーメント）によって提示した。
　本研究によって、雑誌論文10点、学会発表14点、図書6点、DVD（社会学的映像モノグラフ）1点など、合計30点を越える成果を発表することができた。

研究成果の概要（英文）：　Main points that our research project clarified are as follows; (1)The whole situation on the widespread evacuation and support associated with Fukushima nuclear accident, (2)Visualization of the social process and structure related to evacuation and support which are hard to be visible, (3)New model of society and life-style in the post-transitional stage, (4)Comprehensive qualitative social research methodologies including visual research.
　We were able to publish the research results of 30 points or more in total(including the DVD of sociological visual monograph) by this project.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：原発事故　強制避難　自主避難　広域避難　生き方モデル　新しい社会像　災害／原発事故エンパワーメント　社会学的映像モノグラフ

１．研究開始当初の背景

広域避難、とりわけ中・長期にわたる生活再建も視野に入れた避難を対象とする調査研究には、災害社会学の研究蓄積があるが、他方で政府･自治体は被災者支援や復興計画策定に必要な情報を収集するためにアンケート調査を実施することが多い。今回の原発事故後の避難は、かつてないほど大量かつ広域に行われ、その実態は政府･自治体も十分に把握し切れていない。研究機関による調査も行われているが、全体像の把握は極めて困難な状況にある。

避難の客観的実態の把握は、避難者支援施策とも絡み、喫緊の課題であるが、その際の把握手法として使われている調査票(量的)調査では、広域にわたる複雑な移動の動態、避難行動の背景にある避難者の認識や保有資源を十分に補足しきれず、避難者の社会関係や彼らが社会的に無力化されていくメカニズム、その中でより良い選択を模索する主体的な動きを動態的に把握することは難しく、今後の見通しや新たな展望を導き出す材料を得るには限界がある。

本研究チームは、震災･事故直後から福島･首都圏･全国各地で避難者･支援者に向き合って、調査や支援活動を通じて知り合い、福島県富岡町と共同の県外避難者調査に参加した社会学研究者が中心となって組織された。震災から半年の段階で、各調査の成果を集約してメンバーで共有した結果、調査票(量的)調査と単発的なインタビューの限界と総合的な質的社会調査の必要性を認識するに至り、本プロジェクトを企画した。

２．研究の目的

2011 年 3 月に発生した福島第一原子力発電所事故は、避難対象地域を中心に、広範囲にわたる周辺住民の避難を余儀なくさせ、同時に避難者を受入れ･支援する人々･地域を生み出してきた。当事者の苦悩は様々な媒体を通じて報じられてきたが、正確な実態および避難･支援をめぐる構造は把握されていない。本研究では、原発事故の影響を直接･間接に受けて広域の移動を強いられた避難者の動向、避難者と支援者のうちに生じる苦悩や葛藤、そこから見出されるであろう安心や希望の道筋を、質的総合社会調査を通じて多様な角度から明らかにしていく。これらの作業を経て、最終的には、「第 2 の戦後」と言われる事故後の日本社会の転換可能性と「新しい社会像」を、避難者･支援者の反作用／生き様の側から提示することを目指した。

３．研究の方法

本研究では、それまでの成果と全国を網羅した研究者ネットワークを生かし、インテンシブなインタビュー調査や参与観察、ドキュメント分析、ビジュアル調査（映像フィールドワーク）等から得られるデータを分析し、仮説モデルに修正を加えつつ、総合化していくことで、震災後の新たな社会像と生き方モデルを構築する論理を導き出していくという調査研究スタイルを採った。ビジュアル調査を含めて、質的総合調査を行うことで、人々の闘争･葛藤を追い、震災が内在化した社会を「変化させる力」（災害／原発事故エンパワーメント）の本質に迫った。

４．研究成果

避難者を 3 類型に分けると、【1】警戒区域・計画的避難区域内からの「強制的避難者」、【2】中通りを中心とする放射線量の高いエリアからの「準強制的－自主避難者」、【3】首都圏のホットスポット周辺からの「自主避難者」となる。【1】は、行政主導により強制的に避難させられたが、当初は避難解除後に再び元の生活を始めたいと考えている人々が大半を占めていた。【3】は、自らの考えと判断に基づき、空間的・社会的な障壁を跳び終えて移動し、全く新しい場で生活することを主体的に選択する人々である。【2】は、両者のどちらにも分類できない人々、様々な理由で主体的な選択が困難な人々である。避難先としては、①福島県内、②東北、③関東、④中部・東海・近畿、⑤西日本･九州と同心円状に広がり、かつ①→③→⑤といった「玉突き避難」も見て取れる。

他方、避難者への「支援」に関しては、①②③の地域で国や自治体が制度に基づいて行っている支援とそれをサポートするボランティア活動がある一方で、避難者を積極的に受け入れ、④⑤の地域で避難者が定住・定着するのを支援したり、原発・子育て・食の安全性などに関わる問題状況を世に問い、新しい生き方モデルを提案する活動を展開している市民活動団体もある。

これらについて、個別ケース毎に詳細な聞き取り調査等を実施し、避難と支援の全体状況を明らかにし、構造的特質の解明にアプローチした。その結果、見えにくい避難と支援をめぐる社会的プロセスと構造、さらには研究テーマとした「転換後の社会像と生き方モデル」を、避難者･支援者の反作用／生き様を通して相当程度「可視化・可知化」させることができた。

また、避難指示解除後を見据えた生活再編にあたっては、これまでの「自主避難者」の研究から見えてきた視点が不可欠となることも確認できた。福島県内に留まっている人々は、同じ不安を抱えながら生活して

いる「(口に出せない／出さない)“生活内”避難者」であり、「避難」が拡大することにほかならないからである。

研究代表者が中心となって、ビデオカメラやデジタルカメラを駆使した映像フィールドワークを学生と共に実践し、約 62 分の社会学的映像モノグラフ（ドキュメンタリー作品）を制作し公表したことも、本研究プロジェクトによる成果として付記しておきたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　10 件）

①YAMASHITA, Yusuke, & YAMAMOTO, Kahoruko, 2013, "Damages of Fukushima Daiichi Nuclear Disaster and Reconstruction of Communities," 日本社会学会「国際社会学会大会2014 横浜大会に向けて」（報告論文集）［査読なし］

②西城戸誠・原田峻「東日本大震災による県外避難者に対する自治体対応と支援―埼玉県の自治体を事例として―」『人間環境論集』14(1):1-26, 2013 年 6 月［査読あり］

③原田峻・西城戸誠「原発・県外避難者のネットワークの形成過程―埼玉県下の 8 市町を事例として―」『地域社会学会年報』25:143-156, 2013 年 5 月［査読あり］

④松薗祐子「警戒区域からの避難をめぐる状況と課題―帰還困難と向き合う富岡町の事例から―」『環境と公害』42(4):38-43, 2013年4月［査読なし］

⑤山下祐介「原発避難問題の忘却は何をもたらすのか―新たな『安全神話』とナショナリズムを問う―」『世界』842:74-83, 2013 年4月［査読なし］

⑥山下祐介「『帰る』『帰らない』をめぐる住民と自治体―原発避難自治体の2 年目―」『住民行政の窓』386:2-14, 2013 年3月［査読なし］

⑦山下祐介「沈黙させられる原発避難者―不理解がもたらす暴力性―」『週刊金曜日』933:26-27, 2013年3月［査読なし］

⑧Yamashita, Yusuke, How Does the Restoration of Tohoku Society Begin? : Center and Periphery in the Great East Japan Earthquake, International Journal of Japanese Sociology, Vol.21, 2012:6-11.［査読あり］

⑨山本薫子「町民が口にした脱原発運動への違和感―富岡町から避難して―」『週刊金曜日』905:28-29, 2012年7月［査読なし］

⑩山下祐介・山本薫子・吉田耕平・菅磨志保・松薗祐子「原発避難をめぐる諸相と社会的分断―広域避難者調査に基づく分析―」日本環境学会『人間と環境』38(2):10-21, 2012年6月［査読あり］

〔学会発表〕（計　14 件）

①山下祐介「ボランティア・市民活動をめぐる阪神と東日本福島第一原発事故―避難者支援を問い直すことから」東北社会学会第 60 回大会課題報告「災害ボランティアの現状と課題」、東北大学、2013 年 7 月 20 日

②山本薫子「原発避難者とは誰か―連帯の困難と分断をめぐる問題―」関東社会学会第 60 回大会、2013 年 6 月 16 日、一橋大学

③山下祐介「原発避難者対策の経緯と問題点―避難から 3 年目に入って―」第 47 回環境社会学会大会企画セッション「福島第一原発事故災害の被害と復興を考える―原発避難者・被災者の生活再建と脱原発政策をいかに統合するか―」、桃山学院大学、2013 年 6 月 1 日

④山下祐介・佐藤彰彦・山本薫子・高木竜輔「原発避難者を取り巻く問題の構造(1)―避難者調査の概要と課題―」地域社会学会第 38 回大会、立命館大学、2013 年 5 月 11 日

⑤佐藤彰彦・山下祐介・山本薫子・高木竜輔「原発避難者を取り巻く問題の構造(2)―タウンミーティングの結果から―」地域社会学会第 38 回大会、立命館大学、2013 年 5 月 11 日

⑥松薗祐子「区域再編の意味と避難者のさまざまな分断―帰還困難な強制避難者の生き方モデル―」地域社会学会 2012 年度第 4 回研究例会、東京大学、2013 年 2 月 2 日

⑦後藤範章・宝田惇史「沖縄県における避難者の現状と支援―石垣島での調査から見えてくるもの―」第 3 回社会学系 4 学会（日本社会学会・日本都市社会学会・環境社会学会・地域社会学会）合同集会、法政大学、2012 年 12 月 22 日

⑧原田峻・西城戸誠「埼玉県における避難者の現状と支援」第 3 回社会学系 4 学会合同集会、法政大学、2012 年 12 月 22 日

⑨山本早苗「静岡県における避難者の現状と支援」第3回社会学系4学会合同集会、法政大学、2012 年 12 月 22 日

⑩松薗祐子・吉田耕平「警戒区域からの避難をめぐる状況―富岡町からの広域避難者調査から―」第2回社会学系4学会合同研究・交流集会、明治学院大学、2012年6月17日

⑪宝田惇史「原発事故による自主避難の現状と課題―避難者・支援者の調査から―」

第2回社会学系4学会合同研究・交流集会、明治学院大学、2012年6月17日
⑫山下祐介「東日本大震災をめぐる阪神／東京／福島―広域システム災害という視角から―」第63回関西社会学会大会「シンポジウム<3.11以前>の社会学―阪神淡路大震 災から東日本大震災へ」(招待講演）皇學館大学、2012年5月27日
⑬西城戸誠・原田峻、「埼玉県における原発避難者支援の諸相①―自治体対応の比較から」、地域社会学会第 37 回大会、慶応義塾大学、2012 年 5 月 13 日
⑭原田峻・西城戸誠、「埼玉県における原発避難者支援の諸相②―支援団体・自助グループの展開過程」、地域社会学会第 37 回大会、慶応義塾大学、2012 年 5 月 13 日

〔図書〕（計　6 件）
①Ryan Sayre, Heather Swanson, Satsuki Takahashi and Daisuke Naito, eds.(Makoto Nishikido, et al.), *To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World*, The New Pacific Press, Forthcoming in 2014, 262 pages.
②荻野昌弘・蘭信三編著（菅磨志保ほか）, 2014,『3.11 以前の社会学―阪神・淡路大震災から東日本大震災へ―』生活書院, 288 頁.
③関西大学社会安全学部（山下祐介、菅磨志保ほか）, 2014,『防災・減災のための社会安全学―安全・安心な社会の構築への提言―』ミネルヴァ書房, 234 頁.
④山下祐介・市村高志・佐藤彰彦, 2013,『人間なき復興―原発避難と国民の「不理解」をめぐって―』明石書店, 336 頁.
⑤山下祐介, 2013,『東北発の震災論―周辺から広域システムを考える―』筑摩書房, 286 頁.
⑥長谷部俊治・舩橋晴俊編著(西城戸誠ほか),2012,『持続可能性の危機―地震・津波・原発事故災害に向き合って』御茶の水書房, 285 頁.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
○取得状況（計０件）

〔その他〕ホームページ等
①後藤範章監修・制作統括の社会学的映像モノグラフ（ドキュメンタリー作品)「つむぎ合う、未来。－ポストフクシマの新しい生き方と社会像－」（61 分 58 秒, DVD）日本大学文理学部社会学科 後藤範章研究室、2014 年 3 月（16 分 16 秒のダイジェスト版については、http://www.n510.com）
②「東日本大震災 3 年　岡山へ避難なぜ多い――県内で聞き取り調査 後藤日本大学教授に聞く」2014 年 3 月 13 日付 山陽新聞朝刊
③後藤範章「いま、何故『岡山』なのか？」『ちょっとこられぇ おかやま(はじめての岡山暮らし応援ガイド)』子ども未来・愛ネットワーク、2014 年春、及び『やっぱりえかろぅ おかやま（知って欲しい 3.11 避難・移住者の岡山暮らし)』子ども未来・愛ネットワーク、2013 年夏
④西城戸誠・原田峻監修「福玉便り・2013 春の号外」(http://www.hands-on-s.org/fukutama/gougai201303.pdf) 2013 年 3 月
⑤西城戸誠・原田峻監修「福玉便り・2014 春の号外」(http://www.hands-on-s.org/fukutama/gougai2014m.pdf) 2014 年 3 月

６．研究組織

(1)研究代表者

後藤　範章（GOTO Noriaki）
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：70205607

(2)研究分担者

山本　薫子（YAMAMOTO Kahoruko）
首都大学東京・都市環境科学研究科・准教授
研究者番号：70335777

西城戸　誠（NISHIKIDO Makoto）
法政大学・人間環境学部・教授
研究者番号：00333584

山本　早苗（YAMAMOTO Sanae）
常葉大学・社会環境学部・准教授
研究者番号：00333584

柏谷　至（KASHIWAYA Itaru）
青森大学・社会学部・教授
研究者番号：50316329

山下　祐介（YAMASHITA Yusuke）
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号：90253369

菅　磨志保（SUGA Mashiho）
関西大学・社会安全学部・准教授
研究者番号：60360848

(3)連携研究者

田代　英美（TASHIRO Eimi）

福岡県立大学・人間社会学部・教授
研究者番号：80155069

丹波　史紀（TANBA Fuminori）
福島大学・行政政策学類・准教授
研究者番号：70353068

黒田　由彦（KURODA Yoshihiko）
名古屋大学・環境学研究科・教授
研究者番号：30170137

松薗　祐子（MATSUSONO Yuko）
淑徳大学・総合福祉学部・教授
研究者番号：00164799